

2011 年

## 12 月 21 日（水曜日）環のちから「液肥利用者協議会」の設立

京丹後市エコエネルギーセンターで食物残渣を原料にして生産される“液肥”の活用を進める「液肥利用者協議会」がこのほど創設をされました。とても喜ばしく思います。

昨年の約 260 トンから今年は 5 倍増の約 1850 トンに広がっており、今後、液肥の活用がますます広がりをしていくためには、引き続き生産農家の皆さんの理解の普及とともに、液肥利用作物への消費者の支持をどう広げていくかが大切です。

そしてその上で大事なことは、液肥利用作物の高い食味値、美味しさの維持とともに、食物残渣という未利用バイオマスの資源再利用、そんな農業活動を通じ環境循環を形成・促進するという、この液肥農法が有する、これからの新しい時代にまさかなう現代的な付加価値、社会的な価値のあるブランドを、どう広くアピールしていくかということだと思いますし、更に本施設の場合は、液肥となる過程で再生可能エネルギーとしての電気も生産するものであり、マルチな付加価値をもつ極めてのすぐれものであります。

このような液肥利用農産物のブランド化をしようと、ブランド名称の全国募集をしましたら、北から南まで全国から 300 人以上の方により 600 点に及ぼんとする非常に多くの応募をいただきました。その中から、宮城県多賀城市の伊藤和美さんの作品で“環のちから”と命名されました。生産者と消費者、たくさんの人と自然、廃棄物と食料、電気エネルギーが大きな“環”をなして資源が循環するさまを的確に表しているようで、これからの環境循環社会と農業のあり方を象徴する大切な付加価値として生産者の皆さん、消費者の皆さんとともに広く売り出していきたいと思っております。